

（1）新たなデータプラットフォームにおける情報公表の位置づけ

- 高校生向けサービスと大学改革支援とでは目的が異なり、情報公表は、高等教育の質向上・質保証を促進する仕組みとして位置付ける必要がある。
- 大学ポートレートの課題を検証した上で、新しい評価制度とともにやるという新しさを主張する必要がある。教育統計全体の中での位置づけも重要である。

（2）情報公表の項目

- 学生調査結果や学生の成長実感などの学生視点の情報は利用者にとって有益である。
- 競争的資金や特色ある事業の採択状況も表示してはどうか。

（3）情報公表の形式・活用方法

- 公的情報基盤は重要であるが、実際の利用場面を想定して設計すべきである。高校生・保護者は進学先比較に利用し、AIを用いた比較・評価も行われる可能性があるため、その影響も考慮する必要がある。
- AIを活用した検索・比較機能やチャット形式のインターフェースを導入してはどうか。
- 公開データはAPI等を通じて利用できるようにし、利用者が自由に活用できる環境整備が必要である。
- 研究・IR活動のためデータを分析可能な形で提供することが望ましい。API 公開による民間活用を促進するとともに、大学に対する各種調査のワンストップ化を図るべきである。
- 高校生の利用実態を踏まえ、チャットボットの内製化や利用者参加型の設計を検討してはどうか。
- 各大学のホームページからアクセスできるようにすることにより活用が増えるのではないか。
- 高校生や保護者が大学比較をしやすい検索・表示機能が必要である。